

赤岳 県界尾根から真教寺尾根

日程：2017年8月27日

メンバー：Fj（単独）

報告：Fj



赤岳北峰より南峰



赤岳北峰三角点

早いもので膝やくるぶしなど、関節の病を発症して、一年と数か月が経過した。毎週のように楽しんでいた山を休んだところ、いつの間にか足はずいぶんスマートになってしまった。

治療の効果がでてきた春頃から、ポチポチと足の関節に優しい古道や丘陵などを歩きはじめた。そして足と相談しながら、短いコースから徐々に長いコースへと距離を伸ばしていった。

次のもうひとつの課題は、岩場・鎖場の昇り降りだ。なにせ指がまだきちんと曲がらないので、握力がない。岩場・鎖場の昇り降りができるだろうか？ 確かめられる山に行ってみよう！ と、計画したが、今回のコース。

どちらから登るか？ 足に不安があることから、最後はスキー場のリフトで下山できる真教寺尾根を下ることにして、標高差、約1,200mの県界尾根から登ることにした。

かくして前日、美し森の駐車場にて仮眠。翌早朝、車で県道の終点まで行き、路上駐車して県界尾根の入り口、大門沢林道に入った。5:45であった。

結果は、小天狗、大天狗を通過、課題の岩場・鎖場は、脆い岩や浮石に注意しながら順調にクリア。10:15、頂上山荘の前、赤岳北峰に到着した。林道入口より4時間30分であった。まあまあタイムで、「ヨシッ!」と思った。

県界尾根のよいところは、山頂に飛び出すことだと思う。南峰はすぐ先だが、人がいっぱい。北峰も人が多いが、こちらは広い。スペースを見つけ腰を下ろして、早めの昼食とした。

本日は無風快晴、絶好の登山日和、ひとりひとりでいっぱい。南峰が空くのを待っていたが、なかなか空く気配がない、頃合いを見て南峰に行った。しかし、次々と登ってくるので、すぐに下山開始とした。

文三郎の分岐を過ぎると、間もなく真教寺尾根の分岐に到着。鎖が下へ伸びている。いよいよ課題の岩場・鎖場の下りだ。

最初は緩斜面だが、急な箇所も出てくる。しかし、岩は固くしっかりしており、鎖もしっかり固定されている。スタンスは適度にあり、ホールドも大きく、鎖もつかみやすい太さだ。慎重にドンドン下り、ようやく岩場・鎖場が終わった。手指に不安があったが、問題はなかった。ほっとして隣に目をやると、何度か登った天狗尾根のラインがなかなか絵になる。ゆっくり下っていき、腰を下ろせそうな場所を見つけて休憩とした。

行動食を食べながら携帯をチェックする・・・と、Kさんより、メールが来ていた。「赤岳登っていますか? もう下りはじめちゃったかなあ」とある。発信は11:05。何! Kさんが赤岳に登ってきたのだ! 電話をかけてみた。すぐに出た。なんと私を驚かそうと、サプライズで登ってきたのだ。昨日は行者小屋に泊まったとのこと。知っていれば、山頂で待っていたのに、・・・ひょっとするとすれ違ったかもしれない・・・会えず残念であった。しかし、嬉しかった。

牛首山を目指して歩き出したが、これが長い。14時過ぎ、ようやく牛首山に到着した。改めて地図を見ると、赤岳から牛首山のコースタイムは2時間とある。しかし、なんと3時間もかかっていた。ここまでくればリフトには十分間に合うと思い、安心して休んだ。

賽の河原には思ったより早く、15時に到着した。このあたりから県界尾根への林道に抜けられる道があるはずと思って、見まわしてみた。「大門沢」を示す標柱があった。これを下れば県界尾根への林道に降りられそう。しかし、膝への負担を考慮して、当初の予定通りすぐ先のスキー場に向かった。

スキー場は別世界。観光客の後ろに並んで、リフトに乗って楽々と下った。

復活を目指し、もっともっと歩き込んで脚力を付けなければならない、と強く思わされた一日であった。

<コースタイム>

大門沢林道入口 5:45—真教寺尾根への分岐 6:05—6:20 県界尾根入口 6:25—7:15 小天狗 7:20—8:40 大天狗—10:15 赤岳北峰 10:50?—南峰 11:00?—真教寺尾根分岐—14:00 牛首山 14:10—15:00 賽の河原 15:05—15:10 スキー場

追記

県界尾根と真教寺尾根は、どちらから登ってどちらを下るのがベターか？

安全性の観点から言えば、「県界尾根から登って真教寺尾根を下る」のがよりリスクが少ないと思う。

なぜならば、「県界尾根の岩は脆く浮石も多い(特に上部)」からである。

県界尾根を下りに使うと、浮石を踏んで転倒・滑落や、後方から落石を受ける可能性があると思う。登りに使うと転倒しても滑落する可能性は低いと思う。また落石があった時も早く気づくことができると思う。

真教寺尾根の岩は固くしっかりしている。鎖もしっかり固定されている。浮石も少ないので、下りに使っても落石を受けるリスクは少ないと思う。

なお、県界尾根はヘルメットを着用した方が安全と思う。